

テクノの未来を考えるニュースレター

Vol.

8

テクノの
未来を
考える

2026年10月

みんなで出し合った 意見をご紹介します!

現在、播磨科学公園都市の新たなあり方について、「まちづくりチーム」「都市フレームチーム」「イノベーションチーム」の3つのチームに分かれて検討を進めています。

令和8年10月6日には、「まちづくりチーム」の第5回会議を開催しました。主なご意見は裏面に掲載していますので、ぜひご覧ください。

今後も3つのチーム会議の開催状況や意見交換の内容については、「チーム会議ニュース」として引き続きお知らせしていきます。

チーム会議 開催概要【まちづくりチーム(第5回)】

■日 時: 令和8年10月6日(火曜日)

18時00分～19時30分

■場 所: 光都プラザ コミュニティスペース cotohana

■出席者数: 24名

・まちづくりチームメンバー 23名
(コーディネーター/有識者2名、行政職員9名、地域住民12名)

・傍聴者 1名

■プログラム内容: 1.開会

2.ワークショップ(意見交換)

3.意見の共有

4.閉会

・前回(第4回)に引き続き、3班に分かれて意見交換を行い、付箋を用いて意見を出し合いながら、論点に基づく具体的な検討項目を整理し、各班の検討結果を全体で共有しました。

【まちづくりチームの主な論点】(令和7年度第3回あり方協議会資料より)

- ①日常生活(医療・福祉・買い物等)の基盤の確保
- ②くらしの安全(防災・防犯等)の確保
- ③公共交通機関等の交通利便性、持続可能なモビリティの確保
- ④住環境の質の確保(豊かな自然環境との調和、多様な世代への配慮等)
- ⑤働く場・環境の確保
- ⑥多様な人がつながるコミュニティの形成
- ⑦質の高い教育環境の確保
- ⑧学生・研究者にとって魅力あるまちづくり
- ⑨研究機関×大学×企業×地域による新たな学び・交流の創出
- ⑩住民・学生・研究者等多様な人が交流する機会・場(空間)の創出
- ⑪都市ブランドや魅力の創出・発信、シビックプライドの醸成
- ⑫既存施設、未利用地、遊休施設等の有効活用
- ⑬若者等の定住・雇用環境の整備
- ⑭自然、都市の魅力を活かしたまちの魅力づくり、イベントの展開



意見共有の様子

主な意見



その他、全ての意見
はこちら！



参加者

- 民間企業の木を溶かす技術が実用化され、この地域にプラント等ができれば、県立大学の学生にとっても就職先になり、資源としての木材活用は、森林を生かすという点で一つのビジョンになるのではないかな
- 地域には研究施設や太陽光発電等もあるため、水素エネルギーなど新しい技術と地域資源を組み合わせ、社会実装につなげていけないかな
- 推進機構のようなものが中心となって未来のビジョンやアクションプランを考え、動くような仕組みが必要ではないかな
- テクノは地盤が強いので、長期間データを保存する場所や仮設住宅候補地として適しているのではないかな
- 日本には歴史的な資料が非常に多くあるので、それらをデータ化して蓄積する「デジタル正倉院」のようなものをつくられないかな
- 親世代や高齢者等が教育に関わることで、年齢的な多様性をつくることはできるのではないかな
- テクノから相生等へ転出した人や卒業生にも再びテクノへ来てもらい、今の子どもたちと交流できる機会があるとよい
- 小中学生や高校生自身がしたいことを発信し、自治会等の様々な年代の人と一緒に実現するような形にしてはどうか
- テクノらしい新しい、都市的な関わり方、特に県立大学の学生と住民との関わりを増やすと、面白いことができそう
- 研究機関や企業等が事業・研究内容などをもっと地域と共有すれば理解が深まるのではないかな
- 小さなグループのリーダーが年に1・2回集まり、情報共有できる場をつくることや、住民が地域活動を知ることができるような簡単な掲示板等をつくるのがよいのでは
- 「光都てくてくマーケット」をテクノの賑わいづくりや地域外への情報発信の場所として活用してはどうか
- マーケットが出店だけではなく、地域の人が集まり、井戸端会議をするような場になってもよいのでは
- 自治会も地域の小規模な活動の一つとして位置付け、自主的な活動を取り入れながら、他の活動との情報交換の輪の中に入れていくことで、見守り活動や防犯活動等にもつながっていくと思う



有識者（コーディネーター）

- 他地域では、「0から1」を生み出すことを意識し、小さなところから一歩ずつ活動を始める取組も行われているため、テクノでも、まず小さなアクションを起こしていくことがヒントになるのではないかな
- 100円商店街のように、100円で何かを売ることそのものが目的ではなく、それをきっかけに人と人とのコミュニケーションを生み出すような取組も考えられる（今回出た朝の集いのような話にも通じる）
- けいはんな学研都市の推進機構をモデルにしてはどうかという提案は非常に興味深く、テクノでどのような組織をつくっていくのか、それが緩やかなつながりか、推進機構のような形になるのかについても、今後議論が必要
- 組織化を考える上では、「私の話」を「私たちの話」へ展開すること、具体的な行動につなげていくことが重要
- 小さなグループが既に様々な活動を行っていること自体も重要であり、活動内容の情報を集約し、チームで一度眺めてみれば、「こことここをつなげれば、こういうことができる」という新しいアイデアも出てくると思う

**チーム会議では、テクノの未来に向けて様々な意見交換を行っています。
今後も議論を深めながら、テクノの未来を一緒に考えていきましょう！**



播磨科学公園都市の新たなあり方 検討協議会マネジメント会議

【事務局】兵庫県企業庁 地域整備振興課
【電話番号】078-362-3850
【E-mail】chiikiseibi@pref.hyogo.lg.jp

テクノのあり方検討
についての詳細情
報はこちらをご覧
ください
(兵庫県企業庁HP)

